



最優秀賞：滋賀県・JAおうみ富士「青空フィットネスクラブ」

JAおうみ富士 代表理事専務 木村義典氏

滋賀県・JAおうみ富士は「つくる・食べる・つなげる」をコンセプトに「食と農のハブ拠点づくり」をめざす「ファーマーズマーケットおうみんち」を2008年5月オープンしました。更に「あぐりタウン構想」を掲げ、その第一歩として食農展開をしたのが2012年に本格稼働を始めた「青空フィットネスクラブ」です。さまざまな団体と交流・連携や英語表記のチラシを作成し訪日外国人旅行者受入れにも取り組んでいます。

●誰もが一日農作業者に

「青空フィットネスクラブ」は消費者が「1日農業者になれる地域ぐるみの新たな農村おもてなしサービス」です。年数十回開催し、長靴、軍手、農具などはクラブで準備し、参加者は農作業ができる服装で来るだけでよいという手軽な取り組みです。田植えから稲刈り、野菜や花の定植から収穫、芽かきや土寄せ等の中間作業などもできます。

参加者費用は500円で、収穫した農産物が一袋分持ち帰れます。「フィットネス」の名の通り万歩計で2000歩ごとに休憩を取り健康管理に努めたり、歩数カウント100歩を1ポイントに、「健康マイレージ」としてJA総合ポイントに付与しています。

●「農作業もっとやりたい」に应运

活動のきっかけは、オープンした「おうみんち」の品揃え対策でした。

出荷会員に、朝出荷の品物が売り切れたと伝えても「よかった。今日は夕方取りに行かんでええわ」となり、午後の販売台が空になることも。そこで始めたのが、近隣に借りた圃場から野菜を直接収穫してもらう「畑の直売所」という取り組みでした。

収穫した物を300円か500円の袋に詰めてもらい、畝ごとに一つずつ収穫していくと鍋の具材がそろって「鍋畑」も始めました。利用者からは「楽しい」

もっとやりたい」という声が聞こえ、圃場を広げていきました。収穫作業で汗をかくことから「アグリフィットネス」となり、さらに「いい天気なんだから青空でしょ」と「青空フィットネスクラブ」となりました。利用者50人程でスタートし、現在は約330人に拡大しています。



●「食と農のハブ拠点」として

ファーマーズマーケット「おうみんち」は、登録出荷会員約600名で、加工施設やバイキングレストランなどもあります。「青空フィットネスクラブ」の昼食でも利用され、運営している農村女性による食文化体験なども行っています。インバウンド対応のため、(公社)びわこビジターズビューローの会員となり「食と農」に特化した交流・体験を軸に受入体制の強化を図っています。開店以来、「おうみんち」の売り上げは微増を続けており、生産者と消費者の相互理解や協力も進んでいます。

●生産者と消費者のニーズに合致

消費者との交流・体験を通じてファーマーズマーケットを盛り上げることで、JAファンづくりにもつながっています。発想のベースは高齢化や後継者難で手が足りず、遊休農地も出るという農業現場に「援農」という思いが重なりました。しかし、消費者には農業体験を望む思いが想像以上にあり、生産者と消費者双方のニーズがうまく合致する活動になりました。こうした活動を通じて、農業、JAおうみ富士を理解してもらうことができ、収穫までの苦労を知ってもらうことが、地域やひいては日本の農産物を愛してもらうことになり、最終的には農家所得の向上につながればと思っています。





優秀賞：群馬県・J A 邑楽館林「日帰りグリーン・ツーリズムツアー」

J A 邑楽館林 常務理事 阿部裕幸氏

J A 邑楽館林では、J A 東京中央、学校法人食糧学院、都内大学などと連携し、都市住民の農業体験を受入れ、地域活性化やJ A、農業のファン拡大を図っています。地域大学との連携で、若い世代向け農業体験プログラムを作成、実施しています。東京の栄養士・調理師専門学校と連携し、地元産物で「鍋つゆの素」を開発し、地元企業で製造、商品化に繋がりました。

直売所などを拠点に、都市住民と収穫体験やソーセージ作りを行ったことをきっかけに、地域資源を活用した農業体験、料理づくり、J A 施設見学などを組み込んだ「日帰りグリーン・ツーリズムツアー」を平成22年に開始し、平成27年度は年9回で延べ約900人が参加しました。当J Aを中心に行政や観光協会、J A 青年部、J A 女性部と「邑楽館林都市農村交流協議会」を組織し活動しています。

●連携・コラボについて

都市農村交流は、J A グループだけではなく多くの団体・組織との連携が不可欠です。J A 東京中央と連携したグリーン・ツーリズムは双方で成果をあげ、地域の大学との加工品の開発など、積極的に連携しています。都市住民、次世代を対象とし

て、気軽に立ち寄れる直売所「ぼんぼこ」のコアなファンが生産者に転化する現象も起きています。信用・共済・購買・販売に次ぐ5つ目の柱として、都市農村交流事業を大きく発展させていきたいと考えています。



優秀賞：和歌山県・J A 紀の里「フードトレイン 食育×旅育」

J A 紀の里 常務理事 大原 稔氏

J A 紀の里は、さまざまな地域企業・団体・教育機関と連携し交流事業を展開しています。鉄道会社「J R 西日本」との新たな連携では、親子を対象に車両を貸切り「クイズ」や「食育漫才」「食育マジックショー」など多彩な企画を用意しています。一日を通して「食」や「農」「人とのふれあい」を意識してもらう内容で地域の活性化につながるカリキュラムとなっています。

「フードトレイン 食育×旅育」は、駅見学や乗車体験などの「旅育」に取り組んでいるJ R 西日本とのコラボで誕生しました。果樹生産地域として、J R 和歌山線と沿線地域の農業・農村の活性化を目的としています。貸切車両での移動中にも地域の魅力を伝えているほか、みかんの収穫体験、直売所「めっけもん広場」での食育などを行っています。農業体験参加者による「あぐりんクラブ」は若い家族を中心に327家族が加入し、楽しさをSNSで発信・拡散してくれています。

●連携・コラボについて

漁協や森林組合との連携も望んでいます。直売所間で30以上のJ A と品物は動かすが人の交流が希薄です。インフラの整備にも力を入れ、免税店資格の取得、wi-fiスポット、電気自動車の充電スタンドも設置しています。まずはお客様に立ち寄ってい

ただき、食を文化として楽しんでもらえるよう、多様なニーズに応じた対応を大切にします。

都市農村交流、インバウンド、アクティブメンバーシップ等の諸対策を総合的に実行し、思いを共有・共感できる他業態とのネットワークを作っていきたいと思います。